

信 考 考 考

秋の持折

全部八冊

安室卿

秋の持折

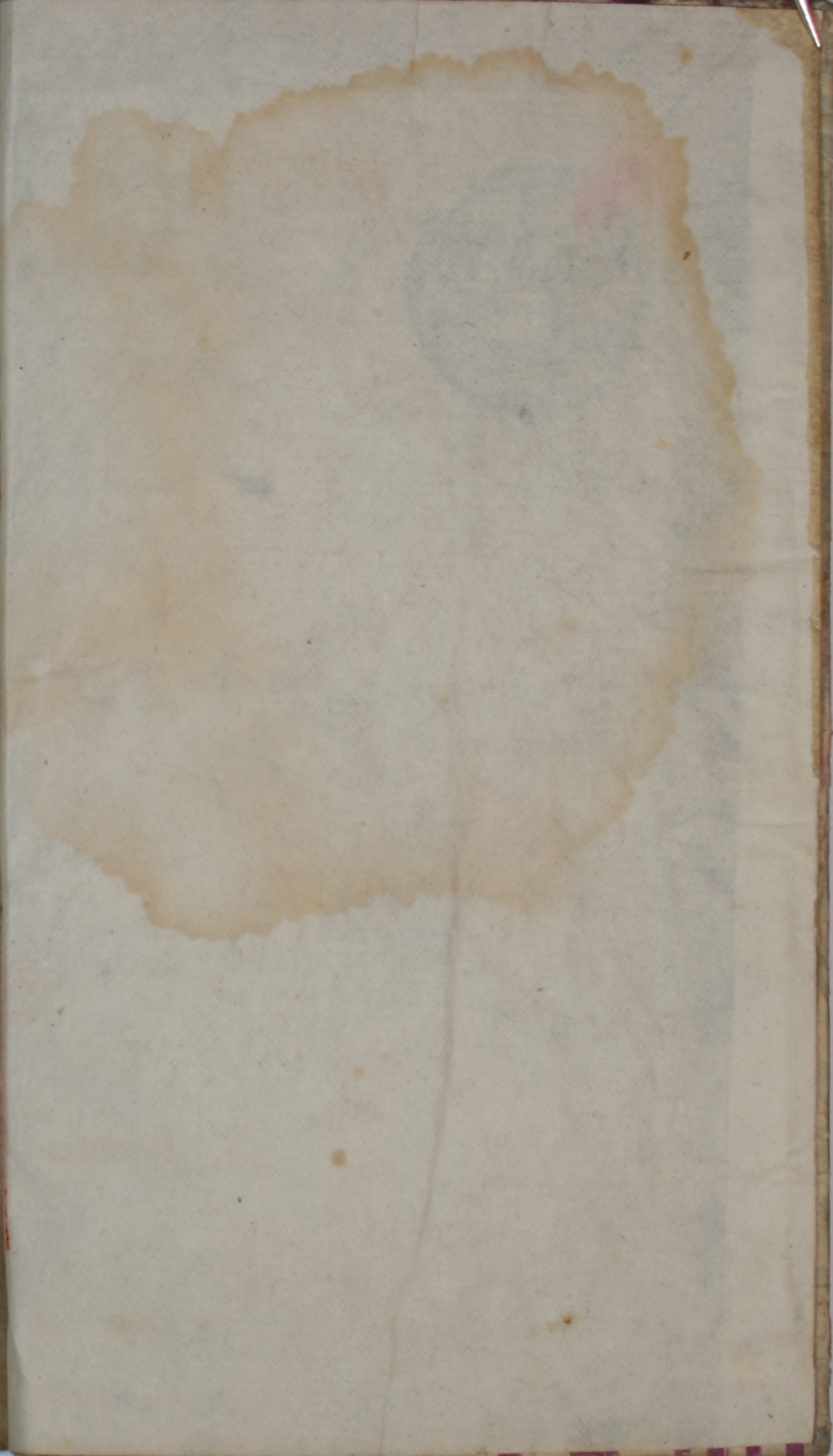
土堂

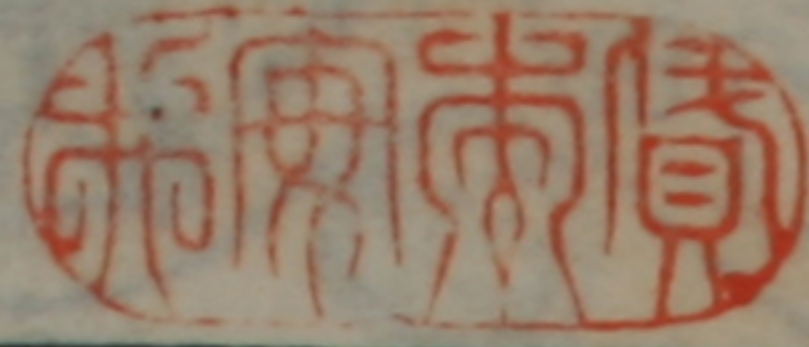
國語

4L

115

1





萩乃枝折

春秋乃詠あき かしこめあき かしこまあき かしこと有あき かしこが中あき かしこま

花はなの兄あにの此こゝ花はなとはな扇あふぎ并ならしはな少女おんな

若わか公こう長ながの是こゝ陰かげ中ちゆうの陽ひかり也なり





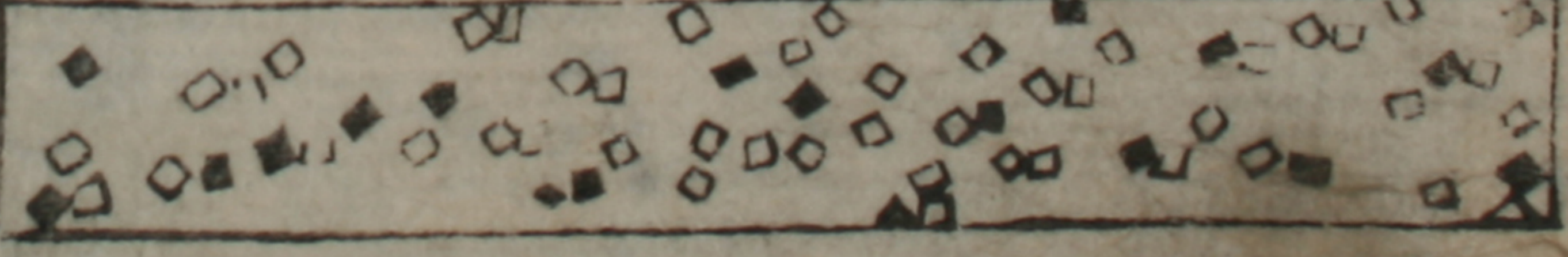
陽中やうちゆう又またまのひのまのひのまのひまのひの榛しん

可よ枝えだ乃の陰いんののはたまのはたままのま

為なのの芽め子こやや是こゝろまのま縁ゆかり也なり色いろ

着き流りゅうりりのの傳でんももそれそれとと象しやうをを助すけをを

女めよよ名なののるるにに傳でんりり也なり





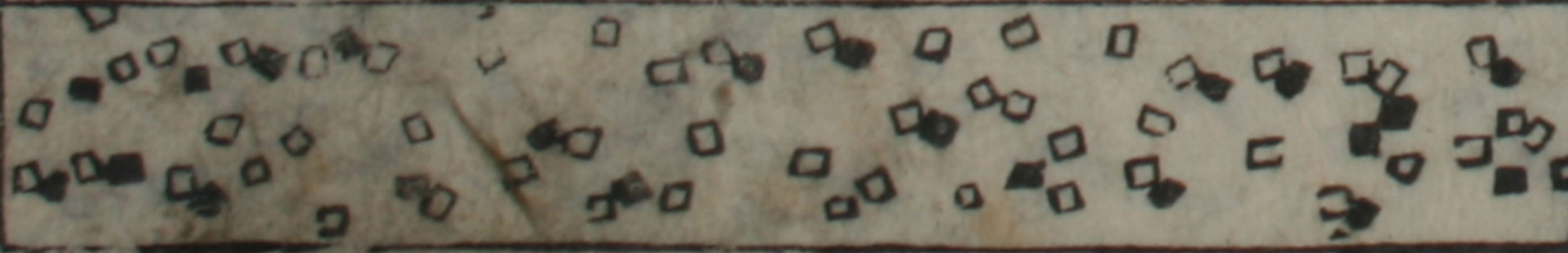
奈々ぬ真萩乃花乃ころぬ

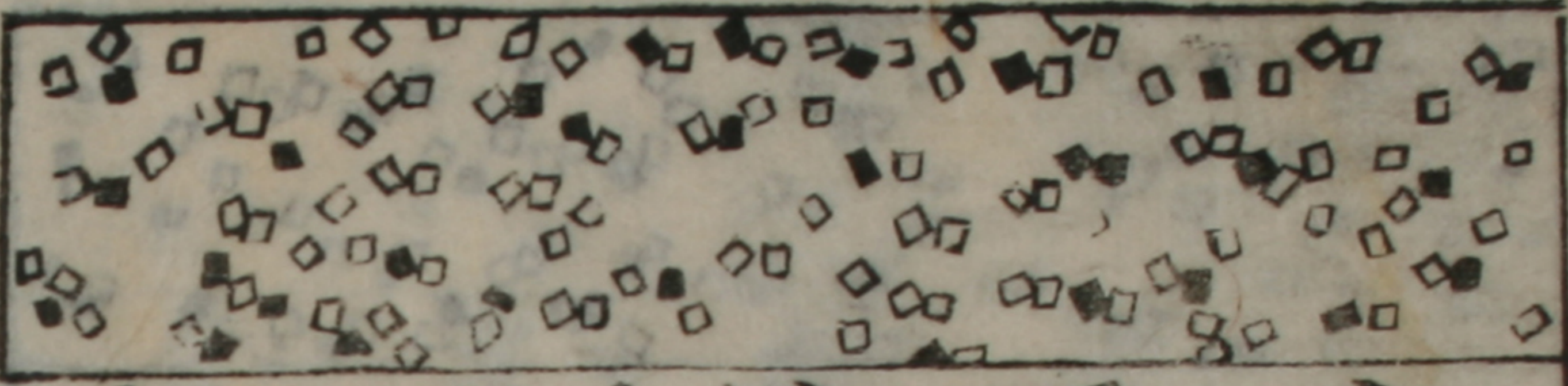
色々初見くらをりよ顯々そ

啼度毛れ真毫よ一言ひる

個の情説艶かすれ蕭蘭れ花

妻が別れし臨んぞ小止るに





恋水こいみづに雨あめをを細こ茶ちや奉ほうるる後ご

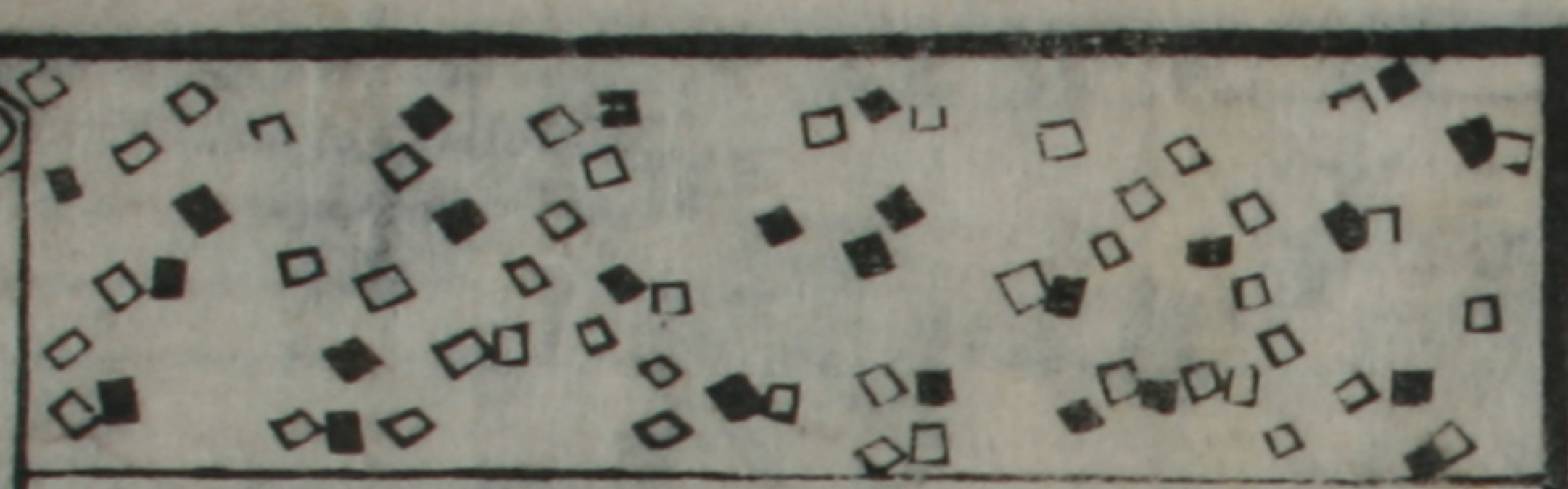
ててままららむむ料りょうととるるりり細こ解かい

ははららのの世よ安やす路ぢををひひるる為ためのの

山やま路ぢとと照てせせるる月つきにに鏡かがみみみも

梅うめのの身みかかるる秋あきののままにに深こほ深こほ扶たす

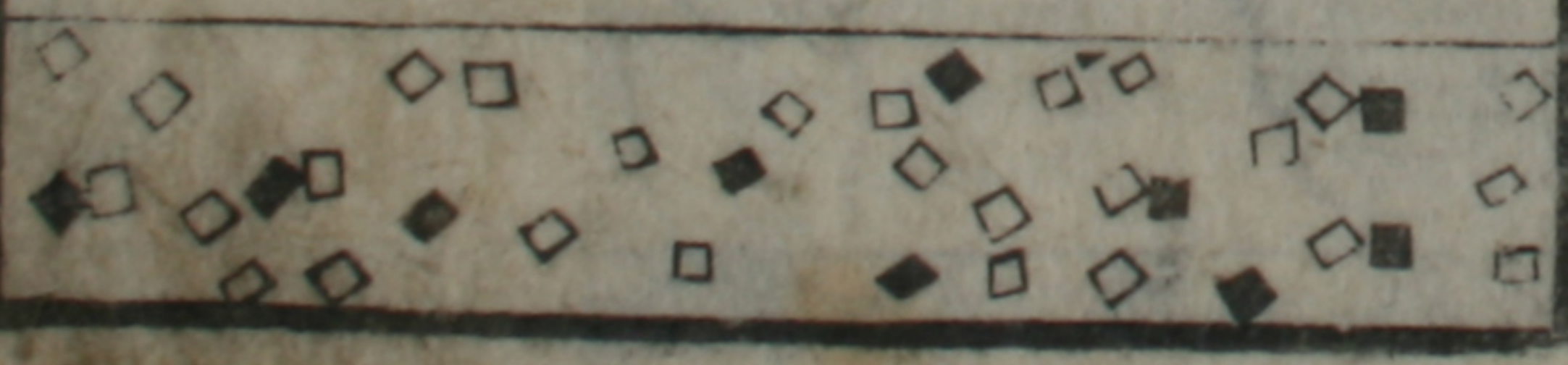




縁多しのたまきすりごとろも。ナカ花さき摺こと衣こと扶こと乃こと枝こと
 折こととこと題こととこと於こと事こと

あつた

南仙笑楚満人





柱戸
唐兵衛

口ノ三



秋田の
お免の
お免の
阿有免

秋田の
お免の
お免の
お免の

高木

高木
寺の
小姓の
衆之助



少女

於専

鎌倉の
男

大古
屋

東左衛門
の

口

柳

柳爾者沙波

乱泥松濃

枝折津

東男能

肩傳

起流風

狂訓亭

圖



悪棍

るりり

瘤松

滑り



第一
萩若
うん風

第三
萩若
用三

第二
女
か
人

第四
妻あ
鹿

翻蝶
物衣
か
か
か
か
か



秋色あきいろ秋あきの枝折えだまげ卷之一

江戸

南仙笑楚満人作

第一回

文選ぶんせん古詩こしふ云いく。但見ただみる丘かみと墳かみと古墓こぼり犁すり玉たまを

田でんとちころりちりり松柏しょうぼく摧くだけとと薪まきとななるなる白楊はくよう愁しみ風かぜま

蕭しょうとととと七人しちにんをを愁しみ殺ころすとと今いまの草くさひひとと上代じやうだいハ花はな

王わうささたたとと入い柳りゆうの都みやこひひとと思おもへへババ信のぶ田のりととるる乃すなは樂たの統と

も千せん変へん万まん化くわ実みとと也や後のち瓜うり鞆つづみととううらら治をさるる今いまの

世のわひくい作しぐぬ民たみももろろ草くさやや兵へいどどももがが林はやしの
 跡あと骨ほね八はち龍りゆう門もん原はら上のうへのの土つち一いつ埋うめめどど朽くちぬぬ名なをを同どうへへバ
 後のち倉くら野の業わざのの次つぎ雪ゆきのの下したのの町まち人ひと一いつ秋あき田た川がわ九く右みぎ衛ゑと
 又また此こゝものものありあり典てん物ぶつ屋やとと家けのの業わざとと一いつととはは業わざをを見み
 けけるるととるるんん當あた面めん六む八はち系けい武ぶ士しのの退たい糧りやう一いつとと名なをを載のせせ
 鴨鴨とと虫むしととりりりり一いつととがが由ゆ來らいありありとと贅ぜい塔たつととるるりり家け
 業わざ一いつとと出で精せい一いつととりり一いつととババびびりり一いつととるるれれ十じゅう倍ばいははるる
 大だい家けととととるるれれととるる妻つまハハ郷きやう一いつとと没ぼつととくく兩りやう個このの

ありまも愛^{あひ}しむ死^し生^まひらこしむいかにんく人^{ひと}毎^まに
ありざらふありたり一時^{いつとき}々の孝次郎^{かうじちろう}うつら
うつらむおひくらぶが仮^{かり}の病^{いび}甚^しきまうり人^{ひと}に遇^あは
まひ。漸^{しん}くは肉^{にく}挽^ひく瘰^{れい}おとろへんたるも及^{およ}び医^い療^{りょう}
て身^みを泣^なくさとり入^いどもささくよその験^{けん}をくきしと
苦^くしむことへるけさども只^{ただ}漸^{しん}くはかひりしがら
ありうま^{うま}七^{しち}。医^い師^しまをゆき^{ゆき}是^{こゝ}れ^らうがの病^{いび}の甚^しき^られば
う^ん^そう^うの^うあ^いの^うま^いハ^ハ久^くの^うく^き氣^き心^{しん}教^{きょう}ト^ひ冥^{めい}く

更まるるんん一一度どととししくくるる所ところををくく風かぜ松まつ崎さき

ざざままびびぬぬ一一ちちややくく別べつ荘しょうへへひひざざるるひひととひひのの後のちにに

補おぎなむむささせせのの人ひととと只ただ管くだりふふ勤つとめめををみみたた時ときもも大おほ

切きららぬぬおお續つ人ひとののここととるるままささばばささららそそくくよよそそまま意い

但ただせせままつつけけんんのの別べつ荘しょうハハ濛もう川がわののああららりりあるある

山やまののああららりりななれれどもども。彼かの所ところをを家いえ居お建きてははささままくくそのその

邊へりへへ入いりりままじじとと獲とくく。氣きをを中なかへへままりりんんとと役やく負おいい

ららししままささししたた新あたらししにに造つくららるるはは志こころづづけけとと向むかふふ所ところににおおかか

きのの
 中舟なかつねにまいりておとおと其ま金のつるえとてゆとたをぞ
 教しやく町の回園かいえんをうひゆとゆ泉いづみあり板山いたやま美み人ひと旅
 法しやくくく一いつ爰こゝ一いつ風流ふうりゆうなる彦ひこ彦ひこ女をんなををばば花はな屋やりり
 建たああうう人ひと孝かう次じ希きととの別べつ業ぎふと居をらら一いつ親おやの
 女をんなを法しやくももくく傳う冊べつ世よ名なととる妓げい女にやとと花はなとと旃せん
 ちて日ひくくつつととひひ酒さけ六む弼び其ま友ともすすとと川かのの西せい味み強きやう
 たたへへ傳う書しやく之の日ひくくわわととくくととままののへへととひひの
 舞まるるととままとといい人ひとどもども孝かう次じ希きのの長ながととううくくとと書しやく

霧きりのそ眼まなことさくらし。さくらよ女とんぐ人らと。

たの持もちの先生せんせい 櫻川おうがわ 若孝わかつたか ちるししく 彰孝しょうたか 見え

ざりふののさるぐう工くわうまをと凝こらし。若孝わかつたか ぬさむらげん

陰かげ芝しば若孝わかつたか ぶりのとらを色いろるんども 彰あき孝たか 子こを居ゐる

若孝わかつたか 咽のどとららし 若人わかつたか とるむさひまこと 若女わかつたか

とさるよんぐ人らねバ。さくらよ是これはようつぎさるうらと。

あつししく 若孝わかつたか のゆまししうとぞ。若孝わかつたか の雪ゆきの下の

若孝わかつたか へ後あと 若孝わかつたか の片かた ちるしり 若孝わかつたか の産うま の間ま びらと

りる。あの中法ちゅうぽうのる材長せらいちやうと担戸たんご唐金清たうきんせいと入
るものもの来りきまるるが。例れいのごとく湯しやうをを知ちし
ゆせきゆせきしるる。書しよき清せいももたぶたぶののぶぶんんおおきき想じやう工く書
せどもせども。ままじじしくしく。足あし時ときの物もの入いるることことああるることこともも六ろく縁えん
ててぬぬ太た清せいつつららりり。金かねをを借かりり用ようひひららるるゆゆゑゑ煙えん花か
志しままくくここららるるよよううんんままああひひららるる大おほききすすよよ碑いひひららるる
が。ぬぬ太た清せいつつららるるよよううんんままああひひららるる。書しよ「モシもし内うちをを人ひとおおくくららるることこと也
おおららるる。エえイいああああ。書しよ「ズずイい時ときふふららけけるるををれれハ

子^こ子^こ息^いぶ^ぶの^のせ^せり^り世^よに^にあ^ある^るは^はお^おも^もい^いへ^へは^はひ^ひく^く
か^か男^{おとこ}あ^あつ^つき^き羊^{ひつぎ}あ^あら^らり^りは^は十^{じゅう}七^{しち}と^とら^らの^のい^いき^き。
嫁^{よめ}子^こは^はあ^あら^らり^りは^は十^{じゅう}七^{しち}と^とら^らの^のい^いき^き。
せ^せぞ^ぞこ^こら^らの^のい^いき^きは^はお^おも^もい^いへ^へは^はひ^ひく^く
る^るぞ^ぞら^らの^のい^いき^きは^はお^おも^もい^いへ^へは^はひ^ひく^く
せ^せら^らの^のい^いき^きは^はお^おも^もい^いへ^へは^はひ^ひく^く
ま^まあ^あら^らり^りは^はお^おも^もい^いへ^へは^はひ^ひく^く
相^{あひま}あ^あら^らり^りは^はお^おも^もい^いへ^へは^はひ^ひく^く

下之保子も一へゆゑ。コサトそお務むらうら
 り。好ぐ是ものどる。お愛ハちひさ。八右衛門が
 身女のちいさいでいものたのう。アイヤハウツの
 妻はのりガありまはは人。九ハさやうるるるる
 何ぞん。とやこあがゆの通子の病人で六助合
 がころい。唐一何サるん。まうまう。とま。義
 道ハ孝えんハ女ぎらひ。どとら又まてがま。こ
 娘のうつくし顔とこえん。とま。かへら。

おろるまをとりひ中し。人を殺すするも大弊が

ひくたろくし。九一そろちがろ麻くぐし。い。

好ふのめりうろ鶴と娶りしとろくぞろろるめん

。九一ハイヤおひよさえんらまら。実小空後

いどよも葛蒲の前入そろちのけりサ。蘇粉の

山町衣通 九一唐士の趙飛園公

ませちやうひけねん 九一そんろろ趙飛太ろり

てろりろくツ 唐一とらまろけよハケろろねん鶴ぞ

のるんのとまを交つけしを〜をるりて カりりひ

まけん○ロミエービ私も此ぞんドのヤオカ野老者ぐこの人物ぐさトんぢぢ

けみちぢぢぢ合せくありし〜こゝへこゝろ二人の来隠〜

こみど〜うましく〜まをだ〜えま〜い、そとら蘇忽〜

そとぞく唐一そとてき〜橋がそのぬえイ、娘がうらな容顔媚〜

たるとと六はも眉ハ二よびぢ月の抑〜媚肌ハえん瑤臺の

月をを〜心。とりつらまや〜後ま平風〜か〜いが。

美よ容まのハと〜もま後〜とあ祭〜とと世あ承やくのとまとら〜

櫻^{さくら}もせそく。古^こ伝^{でん}淋^{りん}二^に毒^{どく}甲^か大^{だい}の^の毒^{どく}さう^{そう}ゆ^ゆい^いく。さ^さの^の

うりと煮^ゆつけこといふ。どよもろあもようかむど

羨^びみものサ子。りぐま^ららぐ^らぐ^らと糖^{ねえ}の^の一^{いち}件^{けん}ハ

九^こ一^{いち}ぬあ久^く唐^{たう}一^{いち}オモセサ^{ねえ}糖^{たう}が^がる^るら^らら^らら^らめ^め

い^いの^のハ^は病^{びやう}氣^きが^がる^るら^らら^らや^や甘^{かん}ん 九^く一^{いち}どよみぞぞえん

二^に将^{しやう}瓜^か散^{さん}蕩^{たう}もの^のも^もあ^あさ^さみ^みと^とぶ^ぶさ^さり^りす^すは^はま。

巾^あの^の通^あり^り日^にぐ^ぐく^くハ^ハさ^さて^てハ^ハと^とま^まり^りま^まと^との^のサ^サ 九^く一^{いち}

一^{いち}サ^サく。ぬえ^{ぬえ}さ^さえ^え来^くると^と活^{かつ}る^るま^まな^なま^まが^がり

けのくおいらとまお^東うら^東く^東ま^東ざ^東お^東と^東り^東る^東ま^東ざ^東。お^東知

ま^東う^東ん^東と^東九^東一^東り^東も^東る^東ま^東ざ^東お^東う^東ま^東ま^東ひ^東ヤ^東ま^東ん

ト^東それ^東う^東り^東ゆ^東と^東ぬ^東ま^東ざ^東ひ^東し^東と^東ま^東う^東け^東唐^東一^東と^東ま^東ざ^東

九^東ち^東勝^東の^東ま^東ん^東実^東ふ^東び^東ま^東う^東ま^東ざ^東も^東親^東兄^東弟^東の^東看^東

病^東と^東ま^東る^東の^東と^東六^東ち^東ん^東う^東て^東ま^東ま^東こ^東ナ^東ソ^東し^東れ^東と^東ま^東ざ^東

モ^東シ^東ユ^東る^東ま^東ん^東ど^東く^東ま^東る^東と^東活^東る^東こ^東と^東神^東の^東ま^東ざ^東さ^東。

々^東々^東々^東。み^東る^東ま^東う^東く^東お^東う^東の^東ま^東ざ^東物^東唐^東一^東イ^東ヤ^東お^東有^東免^東

ま^東ん^東ま^東も^東仲^東人^東と^東ま^東ざ^東ハ^東ま^東る^東ま^東ん^東唐^東一^東イ^東ヤ^東ハ^東

や 書「これハそらう。まら ちやうらるるト 空
 田のー せきーが。まこ ちやうらるるト 若うに 仲人
 でらふぢやうねんが。あんしうまふのサ。目こー
 もてらぶど 仲人の 敷ウチを八十らうと しみーと
 うら。もそサ 如ぢやうせんハ ぢせんせん。いぐれちやうらるるト
 サアくー ぢせんしりれと 九コレ ちやうらるる
 せれを せんくあげらう 下女 「ハイあらうらるるト せんえん
 せんせんが。モシ ちやうらるるせん ちやうて ちやうらるる
 ちやうらるるト ちやうらるるト ちやうらるるト

こころからいよいよおせんころ 素「エ」らんよこれハ
 あつり大^{おん}ききみるそろう。さきふもろりりぐれ^{ねえ}の
 ホイぬえんでいるものどもも甘たこんで。カノ^{ちきうい}趙飛
 の一^{おん}系^{おん}ちききふよ九一趙飛り。りりり。りりれ
 よろしく。ハイさあうるうト^{おん}おきくゆく。それ
 より^{おん}唐^{おん}多^{おん}清^{おん}ハヨクお^やへハうへふぞ。すくぐ^{おん}さきふ
 小平へ^{おん}ちちとあ。津^{おん}田^{おん}元^{おん}八^{おん}のうへえ^{おん}掛^{おん}合^{おん}る^{おん}ふ
 さうそく^{おん}と^{おん}心^{おん}して^{おん}親^{おん}族^{おん}ともそき^{おん}ごん^{おん}の

え。あやうちのひね返すアトすトくれば。とき唐き流

ハお大さるるおぜうちおらおりおこおびおまおらおぬお秋田川

へお敷おとおあおるおるお二お九お左お流おつおもお一おぞおくお海おあお

のおえおあおるおくおあおるお唐おき流おとおのおまおらおりお

むおどおるおくお結納おもおことおすおまおきお後おとおらおびおてお

らおよおくお八月お又お日お一お婚おれお廿おんおとおそおのおらおらお

がおまお入おるおあおあおうお入おとおくおとおきおだけおけるお

あおらおるお海お田おとお六おちおらおりお入おのおらおらおをお破おふお

望^ぞ算^{さん}の孝^{こう}次^じ帝^{てい}大^{だい}を^を極^{ごく}すて。る^るく^く一^一管^{かん}ねの

ぎ^ぎら^ら一^一ま^まて^て入^入る^る一^一と^とら^らひ^ひた^たし^しる^る判^{はん}じ^じか^かる^るま^まは

ぢ^ぢご^ごろ^ろま^まじ^じ唐^{たう}を^を傳^{でん}ふ^ふその^{その}ま^まは^はく^くら^らね^ねけ^けた^たふ。

あ^ある^るま^まじ^じお^おま^ま一^一風^{ふう}輕^{けい}の^のら^らら^らる^るあ^あり^りと^とま^まく^くひ^ひま^ま

義^ぎり^り一^一も^も只^{ただ}由^{よし}か^かの^のこ^こと^とま^まて^てを^をや^やと^とま^まく^くふ

金^{かね}く^くま^まら^ら一^一今^{いま}か^かひ^ひん^んく^く一^一と^とて^て居^ゐる^ると^と傳^{でん}り。

け^けま^まじ^じど^どお^おま^まら^らね^ねが^がひ^ひそ^そく^くふ^ふ人^{ひと}を^をも^もつ^つま^まく^くその^{その}義^ぎ

釋^{しやく}ま^まじ^じう^うく^くふ^ふふ^ふ一^一と^とま^まて^て一^一孝^{こう}次^じ帝^{てい}大^{だい}を^を極^{ごく}すて。

賢さとしの別荘べつそうにま住すむま居かままどももら戸ら病びやう

まま女にもまままららひひるるままばば千とはと九とノと眞まのまももの

ままととはまままくくおおののああままののままががららひひももまままままま

流らせせざるるもののるるふふゆゆままくく中ちゆうままののまままままま

ままののこことと一い姫ひめををつつススしし七しちもも舞まののまままま

まままましし七しち人にんととままままるるまままままままままままままま

子こののまま苦く勞らうをを仕し儀ぎ女にののまままままままままままま

ひひままままくく婚こん姻いんとと延のび日にちととあありりまままままままままままま

うへ ^{さし} 眞身 ^{ちて} 眞身を 雷 ^{なり} 木 ^ま ぬしと。さあ ^ん べ ^ん

^さ 天 ^{てん} ^ま 剗 ^{かく} ^し とも ^も ^ら へ ^へ ^し ち ^ち ^ひ ぞ ^ぞ 杖 ^さ 田 ^で 川 ^が ^ま ね

ハ ^か 中 ^{ちゆう} ^ま 用 ^{よう} ^ま ぎ ^ぎ ^ま ぎ ^ぎ ^の 人 ^{にん} ^に ^け 刺 ^さ ^ら べ ^べ ^日 も ^も ^延 ^{えん} ^ま せ

ぶ ^ぶ ^ら ^ら ^と ^り ^み ^る ^え ^入 ^も ^と ^ま ^り ^入 ^り ^ぐ ^せ ^ん ^と

^深 ^ふ ^く ^き ^し ^く ^ら ^ら ^と ^親 ^お ^に ^た ^ち ^子 ^ご ^塚 ^の ^眞 ^ま ^の ^身 ^み ^の ^人

づ ^づ ^の ^の ^り ^が ^色 ^{しき} ^妙 ^{たう} ^方 ^の ^人 ^の ^人 ^の ^人

せ ^せ ^つ ^る ^一 ^し ^と ^入 ^風 ^の ^人 ^の ^人 ^の ^人 ^の ^人

ら ^ら ^の ^人 ^の ^人 ^の ^人 ^の ^人 ^の ^人 ^の ^人

まづー。ちーまーまーびやうま病氣がまーく入日さのべん

世に全快しーまーまーままーま全くとらせびん

ままーま病まものよま入るまーまねびままーま

ひつままーまんまーままーまければま唐を勝す

人まとまーまくま親族の契約まをるま入ま

がらのま病氣まのままーま由ま今ません

くまらまゆま。人の風使まもゆまばま婿ま婿ま

ままままひま人まをまつま入まーまーま

業内おんないのまゝ入いらふらとやんんののままにに止とめ

けりりとともも。with 業内おんないののままにに止とめ

りりとともも。with 業内おんないののままにに止とめ

るるとともも。with 業内おんないののままにに止とめ

ささららとともも。with 業内おんないののままにに止とめ

疑ぎ心しんをを 操まりりとともも。with 業内おんないののままにに止とめ

計けのの誤ごりりとともも。with 業内おんないののままにに止とめ

中ちゆうをを 海かい田てんのの代だいとともも。with 業内おんないののままにに止とめ



只中のさうをぬち勝つかうけ^こ養入^まとく。一ト^まるるを
 ぬてる^し。九^んの六^ん将^んハ^中屋^ま一^ま集^るう^まこれバ^ととそ
 遠^んせ^んび^んぞ^んより久^くく^くなる^ゆ急^いい^んく^く物^の氣^をえ
 き^しよ^お遠^るる^しとて^ひ日^の延^びの^くま^まぞ^あり^なる^こ。



秋^{あき}の枝^{えだ}折^り卷^{まき}之^の一^{いっ}終^{ぱい}

